

榊田 和美 議員

(一問一答方式)



- ①防災減災対策の強化について
- ②投票率向上について

感震ブレーカーの設置推進について

問 地震発生時に発生する通電火災を防ぐため、感震ブレーカーの設置は効果的だと考える。木造住宅密集地域等への補助制度の創設や有償での配付など、設置推進に関する市の考えを伺いたい。

答 地震に伴う火災の原因のうち6割以上は電気に起因するものと言われており、その電気火災対策として感震ブレーカーがありますが、特に住宅密集地においては、1軒でも火災が起きれば延焼の危険性が大きいため、地震の備えとしてその効果はかなり高いものと考えています。

事前防災の取組は大変重要なことであり、この感震ブレーカーの設置への補助については、令和7年度から実施できるよう、現在、補助制度の創設に向けて取り組んでいるところです。市民の方々が利用しやすい補助制度となるよう努めていきます。

なお、住宅密集地域への補助制度や有償での配布など積極的な普及については、令和7年度に補助制度を創設できれば、その申請状況等を鑑みて慎重に検討していきたいと考えています。

避難所環境の改善について

問 避難所運営の目安として、例えばスフィア基準(紛争や災害の被害者が尊厳のある生活を送ることを目的に定められた国際基準)のような明確な指標があれば環境改善が進むと考える。現状の避難所環境と今後について計画があれば聞かせてほしい。

答 本市では、地域防災計画において、避難所生活に必要な衛生面の整備やプライバシーの確保に努めること、また生活環境への配慮として、高齢者や障がい者、そして女性や子供など多様な視点に配慮するとともに、個人のプライバシーの確保について定め、改善を図るよう努めています。

具体的には、財源の確保を図りながら、プライ

ベート空間を確保することができるよう、テントや防災マットなど、計画的に整備を行っています。

スフィア基準は、今後の避難所の質の向上を考えると、参考にすべき国際基準となるものと位置づけられており、本市避難所運営マニュアルの見直しや、現在作成を進めている避難所ごとのマニュアルの中においても、その基準が反映されるよう検討していきたいと考えています。

また、被災者に対しては、心理的・身体的な不安など、個々の状況や事情に応じて、心のケアや身体的なケアが必要であると考えており、避難所での生活においては、特別な配慮を要する方やその家族を受け入れてもらえるよう、民間の福祉施設と協定を締結するなど、障がいのある方など要支援者への対応についても充実させていきます。

主権者教育の重要性について

問 子供たちが政治や社会のことに関心を持ち、それらを自分事として考え、選挙などに主体的に参加する態度を養うことは重要であると考えているが、小中学校での主権者教育について、現状を伺いたい。

答 各小中学校においては、学習指導要領に基づき、政治の仕組みについての知識習得にとどまらず、主権者としての社会的自立、主体的に他者と連携・協働しながら社会を担うことができる力を身につけることができるよう、社会科や学級活動の学習を中心に、主権者教育を意図した政治の仕組みについての学習を行っています。

さらに、学級活動や委員会活動においても、議事の決定に必要な会議の企画・運営、自治的な児童会や生徒会の役員選出や運営など、児童生徒が自ら運営に主体的に関わることの重要性や、自治的な活動による学校生活の向上などについて体験的に学ぶ機会も設けられています。

また、遠足や各教科の見学、体験活動として、身近な大洲市議会の議場見学や選挙管理委員会などによる出前講座の実施について、各学校に推進していくとともに、子ども議会の実施については、開催時期や参加する児童生徒の選考方法などの課題もありますので、今後も議会事務局や各学校と課題を整理して検討していきたいと考えています。